

て多數ざるに入れ振ひ落し、一日之渡り員數丈けを振出す、此落ちたる名前を、札差共御藏役所に詰居、銘々札、旦那方へ通達する其文に、

明日御天氣次第、御米相渡り候間、此段御案内申上候、以上、何月幾日、何屋何兵衛、何之誰様御用人中様と申越す、請取人ハ兼て札差に引合置、米何程拂米と約し置、船車等直に札差より送付する、後日勘定請取に札差方へ相越す、札差にてハ明細目録を作り差出す、一體御目見え以上は家來を遣すべきを、自身相越すもあり、又先方より伴頭小僧をして爲持差越すもあり、

〔淺草米廩舊例〕御切米冬計請取御名前

一百俵

高木菊次郎

一五拾俵

御桶大工廣德寺

一三拾五俵但合

御鑄物野細工井藤十郎

一貳拾四俵

一拾俵

守隨彦太郎

一五俵

小普請大草榮之丞

一貳拾俵夏計無、春冬、春冬計無、夏

御大器大工松井新左衛門

一拾五俵

四斗入ニ而請取候者

大御番佐野五左衛門

一貳百俵

御扶持方

三十日ニ

一壹斗八升七合五勺

小普請金集手傳西村常右衛門

一右同廝

同村田彌十郎